

10月30日（水）、たんぼぼ組で国語科の努力点公開授業が行われました。単元は「えらんでビンゴ」です。ビンゴに出てくる言葉を、平仮名や片仮名、漢字で正しく書くことが目標です。

初めに、「たんごタッチ」をしました。これは、複数の単語カードの中から、教師が言った単語を見付け、タッチするゲームです。児童の実態に応じて、平仮名だけのものや、漢字が混ざったものを用意しました。なかなか見付からないときは、教師が、『ちいさい』の『ち』を探してごらん」とヒントを出し、見付けられるようにしました。全員が取り組み、正しくタッチすることができました。



【たんごタッチの様子】

気持ちが温まったところで、次に、「えらんでビンゴ」を行いました。一人一人がタブレットを操作して、ビンゴカードを画面に表示しました。教師のタブレットにあるビンゴカードのマスから一つ選び、スクラッチを消すと単語が出てきました。そして、自分のビンゴカードの中から同じ言葉を探し、印を付けました。その後、単語に関わるクイズの答えをプリントに書く活動に取り組みました。例えば、「正しい」という言葉が出たときは、「正しい姿勢はどちらでしょう」と、画像を示し、「みぎ」か「ひだり」をプリントに書きます。他にも、「赤」という言葉が出たときは、「信号の『赤』は、『すすめ』と『とまれ』のどちらでしょう」と、生活の中に見られるクイズもありました。クイズを通して、言葉と意味をつながながら書くことができました。



【クイズに取り組む様子】

その後も何回かビンゴを続けながら、教師が、「あとどんな言葉が出てきたらいいかな」「いくつビンゴができたかな」と投げ掛けました。児童は、自分のカードがビンゴになるために出てきてほしい言葉やビンゴの数を確認し、楽しく活動することができました。



【プリントに記述する児童】

最後に、授業の振り返りをしました。ビンゴに出てきた言葉を平仮名や片仮名、漢字で書くことができたかどうかを確認しました。全員がめあてを達成することができました。

特別支援学級では、児童一人一人の実態に応じて、学習の目標を立て、達成できるように手立てを考えて授業をしています。また、児童が飽きないように楽しみながら活動できるように工夫をしています。さらに、ただ楽しいだけでなく、言葉の意味を理解させたり、生活と結び付けたりもしています。一つの授業の中に、児童に身に付けさせたい力を高める工夫が散りばめられています。